

YMCA News

8.9



「確かな心の交流があるキャンプ」

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

16 青年のこころを
つなぐ

YMCAのキャンプに参加して、今年で2年目。我が家では二人の娘がお世話になっておりますが、参加当初とても驚いた事がありました。それは報告会で頂くリーダー達からの丁寧なレポートです。なんと小さな字でびっしりと書かれている事か！あんなに沢山の子供達の相手をしながら、こんなにも一人一人を見てくれたのだと、恥ずかしながらその時初めて知りました。

ポストにキャンプのお知らせが届くと、子供たちは内容も聞く前から「絶対行く!」と答えます。その日からうきうき、わくわく。「〇〇ちゃんは来るかな?」「ご飯は何を作るのかな?」と二人で楽しそうに話し合います。

中でもいつも二人が最も楽しみにしているのは、大好きなリーダーと会える事。毎回、一番楽しかった事を尋ねれば、真っ先にリーダーの話が上がります。それだけではなく、今では日常生活の様々な場面でリーダーの話が飛び出します。話した事、好きな物の話、時にはしばらく会っていないリーダーの心配まで。子供達の中で、リーダーの存在がとても大きなものに

なっているのを日々感じます。

その理由の一端が、あのレポートから分かる気がするのです。リーダー達がどれだけ心を砕いて子供達と向き合っているか。子供達にもそれが伝わるから、リーダー達が大好きなのでしょう。家庭や学校だけでは到底成し得ない心の動きがYMCAのキャンプにはあります。それは、これから自立に向けて歩みだす子供達の心の糧となるはずで。親として、これ程ありがたい事はありません。

最近では、子供達はいつか自分がリーダーになった時の名前を考えている模様。身近に憧れの存在がいてくれるなんて幸せだね。次のキャンプも子供達は迷わず「絶対行く!」と答えるでしょう。リーダー、スタッフの皆さん、親には見えない(見せない)ご苦労が沢山あるだろうと思います。伝え切れない程の感謝の気持ちをこめて。

いつも、ありがとうございます!

高橋 友恵

(「ちきゅうと、あそぼう。」メンバー保護者)

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

～サッカーキャンプ～

みなさんこんにちは。今年度の、サッカーキャンプのメインを担当させてもらった、ラフから、サッカーキャンプの報告を、させていただきます。

今年のサッカーキャンプは、サッカーだけでなくブルにパーベキューと、盛りだくさんの内容でした。練習では、子どもたちは、大きくて綺麗な体育館に目を輝かせながら、思い切りボールを蹴ったり、走り回ったりしており、いつもとは違った環境でのサッカーを、全力で楽しんでいました。また、施設でのお泊りも、このキャンプならではの魅力であり、子どもたちは部屋で枕投げをしたり、かくれんぼをしたりと大はしゃぎで、お泊りの楽しさを存分に味わっていました。そして、やはり1番の盛り上がりを見せたのは、キャンプ4日目に開催された、岩手山カップでした。2日目の夜に初めて顔を合わせ、3日目を通じて絆を深めた全5チームが、優勝を目指して、しのぎを削りました。どの試合も、子どもたちの「勝ちたい」という気持ちや、「仲間のために頑張る」という思いが伝わってくる、素晴らしい試合でした。岩手山カップ終了後の子どもたちの表情は、1日目とは全く異なるもので、4日間のキャンプを通じて、体も心もどこかたくましくなったように感じました。このキャンプを通じて、私はサッカーというスポーツの奥深さを、改めて知ることができました。サッカーキャンプでは、仲間の大切に気づいたり、仲間のために頑張ることで、自分の持っている以上の力を引き出したりしている子どもたちの姿が見られ、このような成長の場を生み出せる、サッカーというスポーツの素晴らしさを痛感しました。

なかなか思い通りにいかない、ミスが付き物のスポーツだからこそ、仲間と助け合い、心を1つにした時の、大きな感動があるのだと思います。サッカーを通じて、本当に



たくさんのことを、子どもたちに伝えられるということを胸に活動が続けていき、子どもたちと一緒に成長していこうと思います。

岩手大学 教育学部3年
笹川大地(ラフリーダー)

～わんぱくキャンプ～

こんにちは!!いわぞんから2019わんぱくキャンプについてお話させていただきます!今年度のわんぱくキャンプは、参加者22名、リーダー14名の計36名で、中には初めて親元を離れる子もいました。年中から小学4年生までという、幅広い年齢層でスタートしたわんぱくキャンプは、集合した際から天気にも恵まれ、子どもたちとリーダーたちの笑い声であふれていました。

買い物を済ませ、都府つどの森に到着すると、見慣れない、いっぱいの自然に子どもたちは目を輝かせていました。そんな緑あふれた環境のもと、子どもたち・リーダー全員でプログラムやテント設営、野外炊事などたくさんのことにチャレンジしました。

一つひとつの時間、子どもたち同士で話したり遊んだりする中で、時間の経過とともにたくさんコミュニケーションをとる姿が見られ、寝る前のテント内では、各グループ和気あいあいと仲間と過ごす時間を楽しんでいました。2日目は、朝から元気いっぱいに体を動かしました。テントの片付けの時間になると、早く片付けを終えたグループは、他のグループの片付けも、率先して手伝ってくれていました。

最後のフリータイムの時間には、グループを越えて、自然の中でとことん遊びつくしました。今回のわんぱくキャンプは、たくさんのことを経験し、チャレンジすることができたキャンプになったと思います。子どもたち・リーダーたちがともに成長できたと感じられた2日間でした。

盛岡大学 文学部児童教育学科3年
小岩壯太(いわぞんリーダー)

～森の大自然キャンプ～

8月7～8日、森の大自然満喫キャンプに行ってきました。今回のキャンプは、自分一人ではできないことも、皆で協力すれば成し遂げることができることを実感し、子どもたちが自分の力で「楽しい」を作ることができました。

今回参加した子どもたちは、幼児から小学6年生までの幅広い年齢層で、初めての参加の子が多い中、野外炊事で、カレーライスを作りました。薪割りは、直径10cmくらいの大きさから、だんだん小さくしていきます。

初心者・幼児の多いグループになると、悪戦苦闘。火起こしでも、何度もチャレンジするのですが、なかなかつきません。色んな工夫をしながらようやく火がつくと、「よしよし!付いたー!」と歓声が上がり、喜びを爆発させていました。「この火が消えないように燃えやすい木を集めてきて」と声をかけると、どこから集めてきたのか、子どもたちは、山盛りの小枝を持ってきてくれ、この火を絶やさないんだ!という子どもたちの一生懸命な姿が本当に伝わってきました。

野菜は洗うところから、タマネギは皮をむくところから。予想以上に時間はかかりましたが、大きな野菜がごろごろ入ったカレー、スープみたいなとろとろカレーなど、グループのオリジナルカレーの完成です。



たくさんの人に支えられ、このキャンプを終えることができました。皆さん、大きな成長をすることができましたね!来年は、森キャンプを経験した参加者として、胸を張ってまた森キャンに遊びに来てください!待っているよ!!

岩手大学 教育学部4年
齊藤七彩(トラックリーダー)

～宮古キャンプ～

みなさんこんにちは!つくしです。今回「田沢湖思いつきサマーキャンプ」の、メインリーダーを務めさせていただきました。私から、8月6日～8日に行われた、キャンプの報告をさせていただきます。

今回のキャンプは、30人の子どもたちと、10人のリーダー・スタッフの総勢40名でのキャンプとなりました。キャンプが始まってみると、元気いっぱいという表現がピッタリの子どもたちで、集合場所についた時の緊張も、いつの間にか忘れ、私も思いっきり楽しんでいました。野外炊事で、みんなでカレーライスを作った時には、自分の仕事が終わった子が、他の子の手伝いをしてするなど、遊んでいる時とのギャップを感じました。

キャンプ中の、ナイトプログラムでは、宝探しゲームをしたり、リーダー対子でもクイズなどのミニゲームをしたりと、2日間とも大盛り上がりでした。プログラムを通して、リーダーも子どもたちも、同じ空間で楽しむことができました。

そして、天気にも恵まれたので、2日目には、田沢湖へ湖水浴に行くことができました。海水ではないのでバタバタもしないし、波もなく、ボートやビーチボールなど、とても楽しめました。魚を見つけて捕まえようとしているメンバーや、砂浜を掘って、泥風呂を作っているメンバーもいて、楽しい時間になりました。最終日には、キャンプ場の近くにある、思い出の湧分校へ遊びに行きました。昔ながらの校舎の中では、体育館でバドミントンをしたり、教室を使って道徳の授業をしていたりと、あっという間に時間が過ぎてしまうほどに、楽しんでいました。ここまで書いてもまだ書き足りない程の思い出



がありました!本当にあったという間の2泊3日でしたが、この楽しかった思い出を忘れずこれからの活動に活かしていきます。

岩手大学 理工学部3年
鈴木凜奈(つくしリーダー)

～島のわくわくキャンプ～

島のわくわくキャンプでメインリーダーを務めましたピリケンです!島のわくわくキャンプは、8月9日から8月12日までの3泊4日、宮城県の大島町気仙沼大島キャンプ場で行われました。2人のスタッフと11人のリーダー、そして37人の子どもたち、計50人からなる大人数でのキャンプでした。2日目に予定していた海水浴は雷のため実施できず、4日間の中で海に入れたのは3日目の午前中だけとなってしまいましたが、それを感じさせない楽しい思い出がいっぱいのキャンプとなりました。

2日目の海水浴の代わりに行った、お祭りの準備では、グループごとに個性たっぷりの出し物を考えていたり、みんなで分担して、宣伝の旗やチラシを書いたり、磯に行った際、飛び散ってくる水しぶきで、浅瀬でもびしょ濡れになったり。それぞれで楽しい時間を過ごしました。3日目の待望の海水浴は曇り空の下、水温が少し低い中、行われました。しかし、子どもたちは元気いっぱいで、海水浴スタート!となったとたん海にダイブしていました。みんなで手をつないで波に乗ったり、砂浜に埋められて、顔だけしか出ていない人が居たり、2日目に入れなかった分、思いっきり海を堪能していました。

最終日は、グループを超え、女の子たちで大根抜きをしたり、磯に行き打ちよせる波を楽しんだり、全体を感じることが出来ました。2019年島のわくわくキャンプ、大きな怪我なく無事に終えることが出来ました。リーダーの私もたくさんの子どもたちと4日間を過ごせて本当に楽しかったです!ありがとうございました。



岩手大学 教育学部4年
尾河芽生(ピリケンリーダー)

～星空満天キャンプ～

8/4～8/6に行われた、星空満天キャンプで、メインを務めさせてもらったレモンです!今年は休暇村岩手網張温泉キャンプ場で行いました。初めは、少し緊張した様子で、キャンプ場へ向かっていきましたが、バスを降りると、全面に広がる自然とトンボたちに、目をキラキラさせていました。テントを設営した後のフリータイムでは、虫とりや探検、水鉄砲で遊ぶなど、それぞれが全力で楽しんでいました。

カレー作りで、慣れない包丁に挑戦する姿や、諦めないで何度も火付けをする姿が見られ、お兄さんお姉さんたちは、それを手伝いながら、美味いカレーを作ることができました。そのあとは、ナイトハイク。真っ暗な神社もみんな声を出し、怖さを紛らわせて、進んでいきました。ゴールまで行き、見上げると、空には綺麗な星たちが輝いていました。

私たちの朝はとても早く、鬼ごっこや虫とりなどしていました。午前中には、自然のものを使って、思い思いの星座を作り上げました。インフルエンザやギザギザ座など、個性的なものを作り、お互いの星座を見せ合って、「すごい!」と褒める声もありました。その後は、スタンプ大会の出し物や、グループ毎に、皆がどうすれば楽しめるかと話し合いながら、準備をしました。

次の日、待ちに待ったスタンプ大会を行い、どのグループも盛り上げてくれました。3日間のキャンプを通して、子どもたち1人1人が輝く瞬間があり、誰かの挑戦を、違う子が手助けしたり、楽しさや大変さ、ちょっと怖いという感情も共有したりと、相手がいてこそこのキャンプだったと思います。ありがとうございました!!

岩手大学 人文社会学部3年 安恒史織(レモンリーダー)



各学童活動報告&チャリティーバザー開催のお知らせ

～本町ぷらいむ～

本町センターでは、夏休みに様々な行事を行いました。

7月29日と8月7日は映画鑑賞会をし、それぞれドラえもんとかポケットモンスターの映画を観ました。映画を観る前に、みんなで協力して暗幕を窓にかけると、高学年の子ども達を中心に、準備をしてくれました。

8月2日と5日は、それぞれ御所湖広域公園、滝沢総合公園に水遊びに行きました。バスと車でいきます。普段は乗ることないバスに乗るといふこともあり、行く時からみんな大はしゃぎです。公園に着くと、早速大きな池に入って、水鉄砲で水の掛け合い。男女仲良くびしょびしょになりながら、気持ちよく遊びました。

8月6日はスイカ割りをしました。実は、本町センターでは、初めてのスイカ割りです。約30人の子ども達が2チームに分かれて、それぞれのスイカを割ろうとします。「右、右! まっすぐ! そこまで振り下ろして!」みんなでチームワークを発揮し、無事にスイカが割れました! 力を合わせて割ったスイカはとても美味しかったです。

8月8日はかき氷を作って食べました。暑い日にかき氷を食べて、身も心もフレッシュです。主に、高学年の子ども達が率先して作ってくれました。去年も行ったので、作るのが手馴れているのは流石です。低学年の子ども達はきちんとお礼を言ってから食べていました。

今年の夏休みはみんなでお互いの事を思いやり、協力する姿勢が行事を通して見られ、実りを実感できました。

本町センター 中村 圭一

～向中野ぷらいむ～

ぷらいむ・たいむ向中野校の子どもたちは、夏休み期間も、暑さに負けず元気いっぱい過ごしています。今年も、ビニールプールで遊んだり、映画鑑賞会を行ったり、「曲に合わせて歌って踊ろう!」「水彩絵の具で遊ぼう!」「バーベキュー」などのプログラムがあったり、行事が盛り沢山の夏休み期間でした。今回は、バーベキューを取り上げて紹介致します。

今年の5月頃、学童にきている高学年の子どもたちが、「バーベキューをやりたい!」と言い出したのがきっかけでした。声を挙げた子どもたちは、バーベキューをやりたい子が、学童にどのくらい、いるのかについて、表を作り調査を行いました。その結果、多くの子がバーベキューをしたいこと分かり、夏休み期間にバーベキューを行うこととなりました。

当日は、高学年の子どもたちが野菜を切ったり、肉を焼いたり、主体的に動いている姿が印象的でした。バーベキューを食べる子どもたちも、肉や野菜を沢山食べることができ、満足そうで、スタッフの「肉のお替りする人!」の声に、元気に答え、何度もかわり替わりの子がいました。材料や焼き代を準備している際に、ワイズメンズクラブの長岡さんからスイカを頂いたのも、それも人数分切って振る舞いました。それもあっという間に平らげてしまいました。

今後も、子どもたちが主体的に向中野校に関わる中で、良い体験ができる機会を沢山作っていきたくと考えております。

向中野センター 尾形 裕一郎



～前潟ぷらいむ～

「おはよう!!」夏休み期間中の前潟校の朝は、子どもたちの、元気な挨拶から始まります。初めのうちは小声で挨拶したり、挨拶がなかったりもありますが、子どもが元気に挨拶するまで何度も呼び掛けて、8月に入る頃には、ほとんどの子が中に入るなり、元気な声で挨拶するようになり、そのおかげもあり、朝からパワー全開で遊べるようになりました。

大事な一日の始まり、そして自分と相手がいるという共存意識、体調や気分の不具合の早期発見など、挨拶によって様々な効果を生み出すことから、目と目を合わせての「朝の挨拶」はとても大事なコミュニケーションツールだと改めて感じました。

2019年の前潟校夏休みは、色とりどりのイベントが行われました。お誕生会に始まり「映画鑑賞会」「デュエルマスターズ前潟校大会」、学童スタッフによる「硬筆体験」「前潟センターカラム大会」「うちわづくり・木刀づくり」、スタッフのブルックのご家族にも協力していただいた「郷土料理づくり」など行いました。

「硬筆体験」はボールペンや硬筆ペン、筆ペンや水を使う筆を使って文を書くという、体験型になっており、字を書く時の子どもたちは、真剣な顔で集中していたことや、「前潟センターカラム大会」では前潟校から巣立った中学生も参加し、学年関係なく大金星となる試合が生まれたり、夏の太陽より熱い日々を送りました。毎日の見送りの際に言われた、「また明日も朝からYに来るから一緒に遊ぼうね!」この言葉のおかげで、私たちスタッフも暑さなど関係なく子どもたちと充実した毎日を送っていたなと感じました。

前潟センター 東森 聡



～盛南ぷらいむ～

夏休み中、ぷらいむ・たいむ盛南校では、洪水に関する防災学習や、プール遊びなど様々な行事を行いました。

防災学習では、実際に盛岡で起きた事例や、避難する際に注意するポイントを話した後、地図を見ながら、学童に居る時に洪水になった際、実際に避難する場合、どこが避難所なのか、どのようなルートで避難するのかを、グループごとに話し合っていました。話し合いの際に、子どもたちは学年に関係なく、それぞれの意見を交わし合っていました。

プール遊びでは、ビニールプールにぎゅうぎゅう詰めになりながら、お互いに水をかけ笑いあったり、プールに入っていない子も、部屋の床をビしゃビしゃにしつつも、室内から水をかけてあげたりなど、学童全体でプール遊びを楽しみ、水遊びが終わった後は、プールの片付けや、濡れた床を拭くなど、片付けも学童の全員で行いました。また、近くの公園にお出かけを予定していた日に雨が降り、お出かけが中止になりましたが、高学年の女の子たちが、アピールコンテストを企画し、学童全体に参加者を募っていました。コンテストには、性別や年齢関係なく、リーダーも参加し、それぞれ歌を歌ったり、踊ったりと、思い思いのアピールを行っていました。参加していない子達もそれを見て笑い、全員で楽しい時間を過ごすことができました。



ぷらいむ・たいむ盛南校では、今後も、子ども達のやりたいことや、興味のあることを汲み取りつつ、リーダーと子ども達がお互いに協力し合いながら、学童に関わる全ての方が安心して楽しく過ごせる場所となるよう、お互いに寄り添い歩んでいきたいと思っております。

盛南センター 中村 渉

第6回盛岡YMCAチャリティーバザーを開催いたします!!

盛岡YMCAでは、今年度も向中野センターを会場にチャリティーバザーを行います。

日時などは以下の通りとなります。当日は多くの方にご来場頂ければと存じますので、是非足をお運び下さい。益金は、熊本YMCA震災復興支援金として、熊本YMCAに送金させて頂く予定です。

・日時:2019年10月14日 11時～14時

・場所:盛岡YMCA 向中野センター

☆当日販売品のご提供にご協力お願い致します!

皆様のお家の中に、販売品としてご提供いただけるものがありましたら、是非ご協力をお願い致します。ご提供いただける際は、最寄りのセンターにお持ちいただくか、スタッフが受け取りに伺いますので、019-601-6099あるいは080-3094-5468(小川)までご連絡下さい。



「平和への誓い」

ある人はこう語った。「人間の中には戦争へと向かう傾きがあるのではないか？」

戦争の歴史をふりかえって見ると、もともとは部族間の抗争であったものが近代以降は国と国との争いへと変容し現代においてはあらゆる手段を用いていっさいの制限なしに行われる全面戦争になって来ている。はたして、世の中は進歩しているのだろうか？

さらには、環境問題、遺伝子操作、AIの進化などにより、子ども達の生きる未来は今よりもずっと複雑なものになっていくことだろう。ひょっとしたら人間の存在自体が揺らぎかねない時代になっているかも知れない。そんなことを考えると、とても暗い気持ちになる。

ところが、8月6日に開催された広島平和式典において、小学生が読み上げた「平和への誓い」に大いにエンパワーメントされた。

私たちは、大切なものを奪われた被爆者の魂の叫びを受け止め、次の世代や世界中の人たちに伝え続けたい。「悲惨な過去」を「悲愴な過去」のままで終わらせないために。

二度と戦争をおこさない未来にするために。

国や文化や歴史、違いはたくさんあるけれど、大切なもの、大切な人を思う気持ちは同じです。みんなの「大切」を守りたい。「ありがとう。」や「ごめんね。」の言葉で認め合い許し合うこと、寄り添い、助け合うこと、

相手を知り、違いを理解しようと努力すること。自分の周りを平和にすることは、私たち子どもにもできることです。

まずは、僕たち大人が身近にある小さな違いを乗り越えること。その積み重ねが子ども達の未来を作っていくんだ!!

「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは、神の子と呼ばれる。」
(マタイによる福音書5章9節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

●寄付金

晴山浩輔、工藤悦子、今野健男、今野聖子、家村知佳、南原良哉、伊藤眞一郎、伊藤みどり、日村治之、遠藤昌樹、尾張幸久、今松桂子、熊谷大樹、光永尚生、人見見弘、及川茂夫、菊地弘生、日語教会

●維持会員

伊藤眞太郎、伊藤愛美、晴山浩輔、工藤悦子、今野健男、今野聖子、花田龍一、戸貞文、菊谷一、中島敬泰、家村知佳、押切梓、名古屋恒彦、名古屋理恵、増田隆、山坂保宏、伊藤信彦、大関靖二、南原良哉、伊藤眞一郎、伊藤みどり、高瀬裕彦、田村治之、遠藤昌樹、尾張幸久、飯島隆輔、林辰也、魚住恵、今松桂子、熊谷大樹、森山日菜乃、森山幹大、光永尚生、北田二則、北田ユウ子、東森聡、人見見弘、尾形裕一郎、山口貴伸、井上修三、井上優子、井上浩太郎、長岡正彦、高橋友恵、水田賢次、澤田優美、平泉幸子、々々、香藤原祐三、浅沼慧、浅沼美希、若井淳、及川茂夫、阿部深雪、上中優奈、植田一茂、松尾聡子、武田理恵子、佐藤洋一、菊地弘生、重石佳司、accommodate、熊谷咲希、日語教会、滝川佐渡子、浅沼久久、高橋奈葉



バンガロールではバンガロールYMCAを訪れました。私とビリケン、初めて他の国のYMCAへ行きました。日本のYMCAとは大きく違っており、バンガロールYMCAは一言で言うと孤児院。ストリートチルドレンだった子どもたちを保護して、学校に通わせたり、職業訓練をしたりしながら、共同生活をしているそうです。その子どもたちと、アブラハムやキャンプだ、ホイを歌い踊って遊びました。

日本語が分からなくても、楽しそうに踊る子どもたちの姿は盛岡YMCAに集う子どもたちと変わりませんでしたし、私たち自身、とても楽しい時間でした。

このYMCAがなければ、この子たちは、路上で生活していたと考え、YMCAの力の偉大さと自分の無力さを感じました。でも、この日本人と遊んだ経験が、少しでも彼らのためになったらいいなという思いも、心の片隅にありました。

その他にもたくさんの施設に連れてってもらいました。SCMの方々はとても優しく、南インドで話されるタミル語を教えてください、一緒に歌を歌ったり、とても楽しい時間を過ごしました。

SCMでの最終日、仲良くなった子どもたちとインド版UNOをして遊んでいると、お腹が立派で、肌が黒いグレーヘアの男性がやって来ました。彼の第一声は「I'm スレッシュ」そう、彼がここから新たに旅をリードしてくれるMr.スレッシュです。衝撃の登場に混乱するのも束の間、お世話になったSCMの方々に別れを告げ、次の目的地カニャマリに向けて、21時間の寝台列車の旅が始まりました。

とても臭い寝台列車...。食中毒、熱中症とバタバタと倒れるキャンパーたち...。過酷な旅となりましたが、インドの踊り子の女性や、家族連れとの出会い、窓から観る風景は忘れられない思い出です。

そうこうして、スレッシュのお母さんのいるカニャマリへ到着。続きはまた次のコラムで！

岩手大学4年 東彩由海(マックスリーダー)



表紙の写真から



「ちきゅうと、あそぼう。」8月の活動は中津川での川遊び。県庁所在地の中心部にこんな空間があるなんて、盛岡の子は恵まれているな♪

最新情報はこちらでチェックできます！「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>